



Isehara Rotary Club

International Rotary District 2780th/Group#7

2020-2021 年度 第 2693 回例会

令和 3 年 3 月 17 日 (水) 晴れ

RI 会長/ホルガー・クナーク
地区ガバナー/久保田 英男 (鎌倉 RC)
会長/築城 忠生
幹事/天野 耕一郎
会報委員長/田村 貴寿



ロータリーは機会の扉を開く

会長挨拶



2020-2021 年度/築城 忠生会長

皆さんこんにちは、今日はハイブリッド例会にご参加いただきありがとうございます。思い返してみれば 12 月 9 日の年次総会から休会が続き 3 ヶ月ぶりとなります。私は照國さんの第一会場から米山奨学委員会のメンバーとサウレさんと一緒にいます。また第二会場には濱田さん、吉川さん、佐伯さん、荒巻さんがご参加いただいています。天野幹事は会社でオンラインのオペレーションを行なっています。

緊急事態宣言中は休会ということでしたが期間が長くなり皆さまとのコミュニケーションが希薄になると考えて開催させていただきました。地区では 75%のクラブが休会、24%オンライン、そして 1%がハイブリッドで例会を行なっているようです。我がクラブでもオンラインで例会を開催することができたのですが、誰もが等しく参加できる事が大切だと考えて休会を続けてきました。これからはハイブリッドで例会を開催する予定です。

3 月 13 日には PETS が開催されましたので、次回の 3 月 24 日には田中会長エレクトの報告と方針があります。水面下では次年度態勢が着々と進んでいます。また 12 月の年次総会で東君が会長エレクトに指名されましたが、東年度の幹事役には磯崎君が就任いたします。どうぞ宜しくお願いします。

委員会報告

<東井重和/奉仕プロジェクト委員会統括委員長>

[紫外線殺菌機寄贈]

会長より地域に貢献できる奉仕活動を、奉仕プロジェクト委員会で企画してくれとお話をいただき、色々な経緯を経て 2 月 24 日水曜日に伊勢原協同病院へ、紫外線殺菌機を 2 台贈呈してまいりました。贈呈式では、病院長や看護師長、こちらからは会長・幹事・奉仕プロジェクト委員長の私 3 名、総勢 7 名で執り行いました。贈呈先はこのような時期に作業が半分以下になったと大変感激しておりました。また、築城会長のお声かけで多数の報道機関の方々がいらっしゃりクラブの広報にもつながったと感じております。

今回の事業は限られた人数で進めるしか無く会員の皆様には連絡が遅れたことやお声かけ出来なかった事をとっても残念に思っております。

<仙波史生/青少年奉仕委員長>

[市内小中学校への寄付活動について]

伊勢原 3 クラブ共同のプロジェクトとして、伊勢原市内の小中学校 14 校に対して、新型コロナウイルス感染予防の為に、消毒用のアルコールと非接触型のディスペンサーを寄付する活動を進めています。まず、追加募集の地区補助金を申請するとともに、伊勢原中央 RC、伊勢原平成 RC の協力を得て、大山小学校には 1 台、その他の小学校には 2 台、市内の 4 つの公立中学校には 3 台の非接触型の消毒用アルコールの装置 (手をかざすと、消毒液が噴霧されるもの) と消毒用アルコールを配布する予定です。地区補助金が認められなかった場合には、3 クラブの拠出した費用で実施する予定です。各小中学校への非接触型のアルコールディスペンサーの設置は、令和 3 年 4 月中旬までに完了させる予定です。

<瀧尾ゆかり/米山奨学委員長>

[新規米山奨学生]

氏名: 陸 易さん (リク イ) 性別: 男 国籍: 中国

大学: 東海大学 (課程: 学部 4 年)

奨学期間: 2021 年 4 月 ~ 2022 年 3 月 (期間: 1 年)

カウンセラー: 小山博正君



紫外線殺菌機寄贈

ハイブリッド例会

点鐘

築城 忠生 会長

ロータリーソング

我等の生業
四つのテスト 佐藤美成会員

司会

天野 耕一郎 幹事

今後の予定

- ・ 3/24 [第 2694 回] ハイブリッド例会 12:00~
田中会長エレクト PETS 報告
- ・ 3/31 [第 2695 回] 休会

幹事報告

報告済み。

スマイル報告

磯崎貴史/スマイル委員長

築城忠生君、天野耕一郎君、田中徹君、東学君、濱田勝彌君、吉川昌男君、佐伯崇興君、荒巻哲朗君、松下孝君、飯田隆三君、萩原庸嘉君、井戸川秀治君、堂前慶之君、東井重和君、土屋修君、瀧尾ゆかり君、田村貴寿君、

出席報告

堀口雅巳/出席副委員長

会員数	出席計算に用いた数	出席者数	出席率(%)	前々回修正出席率(%)
52	50	24	48	なし
MAKE UP				
なし				

お祝い

米寿のお祝い/佐伯崇興君
生年月日 1933.2.5



ジョルダヤコヴァ・サウレさん/2015年-2017年 米山奨学生



<瀧尾ゆかり/米山奨学委員長>

本日はサウレさんの博士号取得及び帰国に当たり、皆さんにお時間をいただく事になり、本日の例会が開かれました。カウンセラーの萩原さんより、サウレさんのご報告がありますので、宜しくお願いします。

<萩原庸嘉/米山奨学カウンセラー>

私がサウレさんのカウンセラーになりもう6年になります。博士が一番多いのはイギリスで、100万人に対し350人、次がアメリカで100万人に対し250人、日本は残念ながら100万人に対し120人となっています。東海大で博士号を取るために勉強しているのが7000人くらいいますが、1000人程しか取れていません。その1000分の1がサウレさんと言う事で、本当にめでたい事です。これからは祖国のために頑張ってもらって、日本との架け橋になって頂きたいと思います。

ジョルダヤコヴァ・サウレさん/国籍 カザフスタン

私は6年前米山奨学生として初めて伊勢原 RC に来ました。その日からもう6年が経ちました。無事に修士課程を修了し、もっと研究がしたいと思い、博士課程に入学しました。日本にはトータルで11年間住んでいます。振り返るとこの11年間で様々な経験をし、素敵な人たちとも出会いました。

博士課程というのはアカデミックの世界では一番の学位と言われています。色々なことを乗り越えて今を迎えているのは、私自身が強くなったと思えて自信になりました。今までの研究をもとにこれからも頑張りたいと思います。

研究の主な目的はカザフスタンにおける飲み水の問題と電気不足です。この両方を解決するため水素吸蔵合金を利用することを考えました。カザフスタンは自然資源が豊富です。エネルギー燃料は70%が石炭です。火力発電が主で、石油と天然ガスは輸出用です。気候変動や砂漠化、他国に流れる川のため、水不足に悩まされています。そこで水素エネルギーシステムに注目しました。水素は再生可能エネルギーを利用して電気分解で作成できるので環境への負荷が少ない方法と考えられています。水素は気体、液体、固体として貯蔵できますが、気体は圧力が高いので安全性に不安が残り、液体は低温保存のためのエネルギーが必要です。そこで私の研究では水素を固体にすることを考えました。それが水素吸蔵合金です。鉄道で運ぶことができます。水素吸蔵合金のメリットは水素を取り出したり吸着させたりを何回もできることです。毎年首都の人口が増えています。しかし、水資源や日射量の多い所から離れているため水やエネルギーがこれからも不足します。カザフスタンでは鉄、クロム、マンガン、チタンの埋蔵量が豊富です。カザフスタンにおける水素エネルギーシステムは、まず日射量の多い地域の発電所で水素を作ります。水電気分解と湖の水を使って水素を作り、チタンで合金を作り、鉄道で運びます。首都で燃料電池を使用すると水と電気が手に入るといことです。鉄道で運ぶと、50両編成の貨車が10往復した場合、1300万人の人が水を手に入れて、100万人の人が電気を手に入れることができます。このシステムは石炭エネルギーより二酸化炭素の排出量が20分の1であることがわかりました。水、エネルギーを運ぶのに環境に優しい最適な方法であると考えます。

2週間後にはカザフスタンに帰ります。そこで就職して、今まで蓄えた知識を元に活躍したいと思います。長い留学の間、サポートしてくださった皆様に感謝しています。お世話になりありがとうございました。この繋がりがこれからも続くといと思います。

母国での水素技術活用を目指す
大学院総合理工学研究科
ジョルダヤコヴァ・サウレさん

東海大学で学んだ技術を使って母国・カザフスタンのエネルギー問題を解決したい。大学院総合理工学研究科のジョルダヤコヴァ・サウレさんは、国産の風土や地形を踏まえたエネルギー論文執筆、昨年12月12日に開かれた公聴会で博士の学位取得に必要な審査に合格した。

「カザフスタンは、地方に水資源とエネルギーを供給できる環境が乏しい。博士課程で学んだ技術を活かして、母国のエネルギー問題を解決したい。大学院総合理工学研究科のジョルダヤコヴァ・サウレさんは、国産の風土や地形を踏まえたエネルギー論文執筆、昨年12月12日に開かれた公聴会で博士の学位取得に必要な審査に合格した。

エネルギー輸送網の整備を提唱 博士学位の審査に合格果たす

博士課程で学んだ技術を活かして、母国のエネルギー問題を解決したい。大学院総合理工学研究科のジョルダヤコヴァ・サウレさんは、国産の風土や地形を踏まえたエネルギー論文執筆、昨年12月12日に開かれた公聴会で博士の学位取得に必要な審査に合格した。

